地方独立行政法人りんくう総合医療センター
●院外・院内広報

NICE SMILE

VOL. 64

2016 新春

◀絵手紙作家・教室主宰
宮脇 泰彦 氏 作

発行・責任者：広報・年報編集委員長　森朝　紀文
〒598-8577 大阪府泉佐野市りんくう往来北2番地の23
TEL072-469-3111(代)　FAX072-469-7929
http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/

年頭挨拶

2016年、りんくう総合医療センターはさらに進化します

地方独立行政法人りんくう総合医療センター理事長　八木原　俊克

新年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年はテロや災害、不祥事に関連した国内外の報道が多い中、医療関連として大村智氏のノーベル賞授賞の報が花を添えてくれました。生理学・医学賞としては1987年の利根川氏、2012年の山中氏に続く3人目の快挙です。氏が米国留学から帰国後にも研究費を確保するため、米製薬大手と産学共同研究契約を結び、勤務先に近いゴルフ場付近で採取した土から多様な作用を示す物質を作る未知の放線菌を発見、同社に送ったところ、寄生虫を棲みつかせたマウスや牛に菌の培養液を与えると、1回投与でほとんど寄生虫がいなくなったそうです。氏がこの菌から発見し、今回の授賞対象となったエバーメクチンという物質が途上国に多い感染症や風土病に有効なイベルメクチンという特効薬を生み、現在でも年3億人が服用する薬だそうです。他にも幾つか医薬品や農薬に実用化された物質の発見にも貢献され、同社からのロイヤリティは総額二百五十億(!)ということです。

昨年、当センターでは、2月にりんくう教育研修棟が開棟し、泉州南部卒後臨床シミュレーションセンター(サザンウィズ)と300余名収容の部屋を含む数室の会議室があり、医師に限らず、この地域で従事する全ての職種の医療人が集い、学ぶ施設として運営しています。医療は医学の進歩によって常に変遷し続けるもので、医療従事者の研修・研究は医療現場で常に付随すべきものです。8月には大阪大学大学院医学系研究科総合地域医療学寄付講座教授山下静也先生が病院長として赴任されました。山下先生は優れた臨床医であるとともに、優秀な研究者でもあり、この地域の研修のみならず、医療従事者の教育・研究をも促進させるハードとソフトが着々と整いつつあることを実感しています。

さて、2016年4月の診療報酬改定では、国の厳しい財政事情から、本体部分を0.49%引き上げる一方、薬価を1.22%、医療材料を0.11%引き下げ、市場拡大再算定による薬価見直しで0.19%を引き下げるなどの削減措置により、全体で1.03%引き下げると発表されており、慎重な対応が必要です。

また、この2月27日に大阪国際交流センターで第9回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会を当センターが担当して開催します。本集会は医療の質や医療連携、そして医療安全等の一層の向上を目指し、地域の全ての医療従事者が一堂に会し、多職種で意見交換と情報共有する貴重な機会になっており、是非とも多くの方々のご出席をお待ちしております。

この地域の大きな特徴である病々・病診連携をはじめとする地域連携の一層の促進を図り、皆様方と共に地域完結型医療へまい進したいと考えています。今年も引き続き皆様方のご理解とご支援をよろしくお願いします。

CONTENTS

「年頭挨拶」理事長　八木原 俊克 …… 1
「年頭挨拶」病院長・医療監・副病院長・事務局長 …… 2～3
「年頭所感」各部門長 …… 4～11
「渡部先生 島根大学医学部教授にご就任」
「りんくうリレーマラソン」「クリスマスコンサート」
「泉州医療フォーラム」「編集後記」「人権標語」 …… 12

年頭挨拶

新年のご挨拶

病院長　山下　静也

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様方におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は当院との医療連携に対して深いご理解とご協力を賜り、有り難うございました。厚く御礼申し上げます。

昨年8月より伊豆蔵正明先生の後任として病院長を拝命致し、あっという間に5ヶ月が経ちました。昨年は2月に『泉州南部卒後臨床シミュレーションセンター（サザンウィズ）』を開設し、年初から慌しくスタートを切った1年でした。同センターはシミュレーション機器や会議室スペース等の設備を整備し、運用を始め、臨床技能の習得とチーム医療の充実を図る教育プログラムを開発してきました。既に多くの方々にご利用頂いておりますが、今後はそれらを活かせるよう地域の医療従事者の方々にも参加頂ける研修プログラム等の開発を強化・充実させ、地域医療の質の向上に貢献して参ります。幸いに、この新たな試みによって若手医師の人気も急上昇し、研修希望者が相当増加している点は喜ばしい限りで、将来的に南泉州地域の医療水準の向上に大きく貢献できると確信致しています。

本年4月には2年に1度の診療報酬改定が行われる予定です。今回の改定においては医療機能の分化・強化・連携を重点課題とされておりますが、診療報酬減額が予測され、経営的に厳しい自治体病院に対して更に負担が増えようとしています。しかしながら、このような困難な状況の中でも、当院は職員が一致団結して困難に立ち向かって収益を確保し、地域における効果的・効率的な医療体制の構築が求められる中で、当院はこの南泉州地域における中核病院として、地域の先生方と連携しながら超急性期医療から在宅医療・介護まで切れ目のない、地域完結型医療の実現に注力して参る所存です。

一方、当地域は以前から病診連携・病病連携が緊密に行われてきた地域ですが、残念ながら当院では消化器内科や眼科等の診療科の常勤医師の欠員により、全ての病態に対応できるわけではないという現実的課題がありますが、本年は医師の確保に努めて、できる限り早急に充実した診療体制の整備を行い、幅広い紹介患者様の受け入れが可能となるよう努めて参ります。

今後も地域医療の連携がより一層重視される中、本年も引き続き先生方のご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

平成28年の年頭にあたって

医療監　伊豆蔵　正明

新年明けましておめでとうございます。皆様には平素より、りんくう総合医療センターを御支援頂き有難うございます。

さて私事で恐縮ですが、平成26年9月より体調を崩し、1年余り休職しておりました。病院長としての重要な仕事ができず、地域医療機関の皆様、当院の職員など多くの方に御迷惑ならびに御心配をおかけ致しましたこと、この場を借りてお詫び申し上げます。その間は理事長の指導の下、副院長はじめ職員の努力で、滞りなく病院運営がなされておりました。しかし病院長不在の状態が長期に亘ることは良くないと思い、院長職の交代をお願いし、昨年8月に山下静也病院長を迎えるに到りました。平成21年より6年間、当院にとっては激動の時期に病院長の任にあたりましたが、多くの皆様に多大な御協力、御支援を賜り、ここに改めて御礼申し上げます。

今回、患者として何度か入院し、引き続き外来診察も受けていますので、患者さんの視線で当院を見るという貴重な経験も致しました。手前みそではありますが、やはり当院は頼りになる病院で、各職員の仕事ぶりも的確で安心して任せられると感じた次第です。患者が私の時に限らず、全ての患者様にも同様の態度で接しているものと信じています。

幸いにも私の体調も徐々に回復し、昨年11月に医療監として復職致しました。今までとは違った立場で、少しでも当院ならびに地域医療のお役に立ちたいと思っております。何卒宜しくお願い申し上げます。

2016年を迎えて

副病院長兼 地域医療サービスセンター長兼 心臓センター長　永井　義幸

2016年を迎えました。りんくう総合医療センターは1997年に開設以来今年の秋で満19年を迎えます。3次救命救急センター、国際診療、感染症センターといった機能は他の病院にはあまりなく、この病院の強みとして大きくはばたきました。先を見据えて、この3つの機能をあわせた病院構想をたてられた藤田名誉総長の当時の決断に感服するとともに、いずれも政策的にどうしてもこの地域に必要な機能でありながら人的・財政的に運営する難しさにも直面しております。

今年のトピックスのひとつに若手医師の研修制度の大きな変化があります。おおざっぱに言いますと、2015年以降の医師国家試験合格者は、2年の初期研修の終了後、さらに3年の内科外科などの基本領域の研修を開始するとほぼ同時に、内科領域であれば循環器内科や消化器内科・呼吸器内科などのサブスペシャリティー領域の研修を始めることになります。卒後5年で新・内科専門医試験を受験することになります。その研修には幅広い症例やトレーニングが必要となります。当院では多くの専門科があることから十分研修トレーニングができる施設であります。しかしながら、この走り出した制度変更は、若手研修医をより条件がよく、経験症例が幅広く早く揃う大学や都市部の大規模病院へと、シフトさせています。病院全体の若手医師の確保や全職種が若手医師を育て教育に携わる風土がこれからますます重要になる一年と思われます。

若手医師の例でお話ししましたが、このことは看護やその他のmedical staff、事務系職員の教育にも同じことが言えます。今年も全職員がりんくう総合医療センターをますます盛り立てていただけますようお願いを申し上げます。

副病院長兼救急診療部長
サザンウィズセンター長
松岡　哲也

新年あけましておめでとうございます。皆様のおかげで今年も新しい年を迎えることができました。心から感謝申し上げます。

昨年は2月にりんくう教育研修棟を立ち上げ、サザンウィズ（泉州南部卒後臨床シミュレーションセンター）を開設しました。サザンウィズの目的とするところは、魅力的な教育環境を提供することにより、この地域の医療を担う医療専門職を集め育て、多職種による地域連携を一層強化することにあります。漸くその態勢も整備されつつあり、本年はこの施設を有効に活用して一層地域に貢献していきたいと思っております。

さて、泉州地域においても、国の定めた「医療・介護総合確保推進法」に則り、団塊の世代が後期高齢者となる２０２５年問題に対応するために、医療・介護・福祉の連携による地域包括ケア体制の構築に向けて動き出しました。この法律の意図するところは、「医療（Ｃｕｒｅ）」から「介護（Ｃａｒｅ）」への移行を加速させることであり、急性期病床を削減して医療費の高騰に歯止めをかける思惑もあるようです。確かに、増え続ける社会保障費が国の財政を圧迫している現実は注視すべきですし、夫々の患者さんにとって相応しい医療や介護の提供体制を構築することも重要です。しかしながら、泉州南部地域の急性期病床数は、決して過剰な状態ではありません。りんくう総合医療センターは、当地域の急性期治療の中核病院として、今後も皆様が安心して治療を受けられる環境を整備していきたいと思っております。ただし、今後の医療制度改革においては、これまで以上に当院だけでの治療完結が困難になると予想されます。従って、患者さんの病状に合わせて、適切な医療機関への転院や在宅医療への移行をお願いすることにご理解頂きたく思います。今後我々は地域の医療・介護・福祉などの関連諸機関と連携協働して、患者さんにとっても分かりやすい体制整備（体制の「見える化」）に努める所存です。

本年も当院の運営ならびに、当地域の医療介護体制の整備運営にご協力のほどよろしくお願いします。

副病院長兼看護局長
藤野　正子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年4月に副病院長兼看護局長に就任し、あっという間に次の年を迎えることになりました。

〝患者さまの安心と満足を目指して看護がつなぐチーム医療の実践〟をスローガンに、看護師が医療チームをつなぐ役割を担えるよう、各部署が努力をして他職種との合同カンファレンス件数も増加をしてきています。早期に患者さまを安全に安心して地域にお帰しするために、まだまだ一歩を踏み出したところです。

２０２５年を前にすでに院内でも高齢化が進み、合併症を含む病態・病状管理の頻度も高くなります。また、〝多死〟社会といわれる時代に入り、どう最後まで生きるかを支援することが必要となり、昨年は大阪府下の専門・認定看護師の協力のもとにエンド・オブ・ライフ・ケア研修を主催し、他施設からも受講をお受けする事ができました。とても有意義な研修となったことをお伝え致します。

高齢化に伴い認知症に関しては急性期病院である当院でも大きな問題ですが、幸い認知症看護の認定看護師研修を終えて復職する時期になりました。急性期看護だけではなく、高齢者の看護をプラスし、社会のニーズにあった看護の提供ができればと考えています。

今年は関連施設や訪問看護等の医療・介護福祉領域ともつなげられるように努力いたします。

末尾となりましたが、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

事務局長
細谷　進

皆様、明けましておめでとうございます。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年は申年です。辞書を引くと、「申」という字は稲妻の形で、左右に光が屈折している形を縦線の横に並べて「申」という形になったといわれているそうです。この稲妻は天の神の威光を表した形で、神の発するものであるという考えから「かみ」の意味となり、「申」が「神」のもとの字になったとあります。申の日は天候が悪く大風が吹くといわれており、申年においても荒れた年が多いようです。申年の出来事で有名なものでは、昭和43年の「3億円事件」、「日本初の心臓移植（和田心臓移植事件）」が目を引きますが、平成16年には「鳥インフルエンザの発生」と医療に関係する喜ばしくない出来事もあります。

今年は、医療機関にとっても重要な年で、診療報酬改定の年でもあり、また、地域医療構想が示される年でもあります。特に、地域医療構想は２０２５年に向けて医療体制を大きく変化させるためのスタートの年ともいえるので、「天候が悪く大風が吹く」ということにならないことを祈ります。

そして今年は、当院が2月27日（土）に第9回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会を担当する年でもあります。それゆえ、1年後の酉年には「昨年は良い年だった」と思えるような1年であってほしいと願っています。

年頭所感

診療局長兼
血液内科部長
烏野　隆博

明けましておめでとうございます。

診療局長となりまだ3カ月余りですが、今後、医局員と幹部の間に立って風通しのいい環境を作り、ハード面・ソフト面の充実を図り病院一丸となって地域の皆さまに最良・最適な医療を提供したいと思っております。また、血液内科としては昨年4月にメンバー刷新・1名増員し3名となりました。まずはこのメンバーで非血縁者骨髄移植・臍帯血移植が施行できるように〝骨髄バンク認定施設〟となるべく邁進し、ひいては血液疾患に関してこの泉州地域で完結できるようにしていきたいと思っております。本年も宜しくお願い申し上げます。

総合内科・感染症内科部長兼
感染症センター長兼
院内感染対策室長兼産業医
倭　正也

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

日頃より当診療科に対し多大なる御協力ならびに御支援を賜り誠にありがとうございます。この場をお借りして深く御礼申し上げます。近年、輸入感染症ならびに多剤耐性菌など感染症に対する話題が数多く報道されています。皆様方にも御協力いただき、この地域の感染症対策に尽力させていただく所存でございます。今後とも御指導、御鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

膠原病内科部長
兼リウマチセンター長
入交　重雄

新春のお慶びを申し上げます。昨年は地域医療に関する方々、院内各部門の方々からのご協力を頂き大変お世話になり御礼申し上げます。微力ながら今年も南泉州地域の膠原病内科・総合内科感染症内科・国際診療科の領域で貢献できるよう努めます。本年も宜しくお願い申し上げます。

血液浄化センター長兼
腎臓内科部長
坂口　俊文

あけましておめでとうございます。

今年もよろしくお願い申し上げます。

本年は私の当院着任後、5年目にあたります。この4年間に、診療体制もかなり充実してまいりました。今年はこれまでに蓄積した基礎の上にさらにしっかりとした体制を築き上げたいと考えております。昨年まで行って来た近隣の透析施設様との災害対策ネットワーク作りに加え、腎不全対策のネットワーク構築にも力を入れたいと考えております。

神経内科医長
宗田　高穂

医療崩壊が叫ばれるようになって久しくなりますが、改善の見通しはいまだに立っていない状況です。この南泉州地域も例外ではなく、特に内科系医師の不足は数年来からの懸念事項となっています。

神経内科におきましても、りんくう総合医療センターで1名の人員での診療を余儀なくされています。少ない人員であっても診療の質を落とすことなく、良質な医療を提供できるよう努力してまいります。微力ながら南泉州の医療に貢献できるよう精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

循環器内科部長
武田　吉弘

明けまして、おめでとうございます。

旧年中は、救命センター、りんくうの当直の先生方の御協力のおかげで、緊急カテーテル治療数が大幅に増加しました。

本年も宜しく御願い申し上げます。

がん治療センター長兼
外科主任部長兼
医療安全管理室副室長
位藤　俊一

新年あけましておめでとうございます。旧年中は地域の先生方をはじめ各診療科先生方、薬剤師、看護師、検査技師、地域医療連携室、診療情報管理室、相談支援センターや医師事務作業補助者をはじめ様々な部門の皆様にご協力いただき、チーム医療を実践することができました。この場をお借りし心より感謝いたします。本当にありがとうございました。たとえ不利な環境があったとしてもチームが一丸となることでより良い環境に変換できると考えています。本年も厳しい中にも楽しさを共有できる、プロフェッショナルなチームを目指し、柔軟かつ大胆な発想を展開いたします。地域の先生方からご紹介いただく緊急手術症例等への対応はもちろんのこと、最新のデータやエビデンスを吟味し、よりよい診断、治療を、適確かつスピーディに提供できるよう、日々邁進していく所存です。本年もご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

外科部長兼
栄養管理センター長
飯干　泰彦

当院は大学病院や小児医療センターをのぞくと、泉州地域だけでなく、関西でも数少ない小児外科専門医・指導医の常勤する施設です。疾患としては、小児鼡径ヘルニア、臍ヘルニア、乳児痔瘻、尿膜管遺残等の日常疾患はもちろん、虫垂炎、腸重積、肥厚性幽門狭窄症等の急性腹症まで幅広く扱っております。また、小児外科的に高度専門医療を必要とするお子様に対しては、各大学病院や小児医療センターへの橋渡しの役割も担っております。当地域の小児医療に少しでも貢献できるよう努力していく所存ですので、今年もよろしくお願い申し上げます。

高度脳損傷・脳卒中センター長兼
脳神経診療部長兼
脳神経外科部長
萩原　靖

前任の森内先生から脳神経センターを引き継いで早くも2ヶ月が過ぎました。

慣れ親しんだ救命センターを離れ新たに脳神経診療部を切り盛りしていくには不安もありましたが、優秀で熱意溢れるスタッフたちに助けられ、上々のスタートが切れました。我がりんくう脳神経外科は手術・血管内治療の件数では大阪有数、誰もが認める泉州地域の脳神経診療の中心でもあります。本年もその名前と期待に恥じない、地域から信頼される脳神経診療部を築いていきたいと思っています。

心臓血管外科部長兼
ＩＣＵ／ＣＣＵ部長兼
リハビリテーションセンター
副センター長
松江　一

新年、あけましておめでとうございます。旧年中は地域の先生方、及び関係の皆様方に多大なるご支援を賜り深く御礼申し上げます。

当科では心臓血管外科治療全般を行っておりますが、専門外来として「大動脈専門外来」「心雑音・心臓弁膜症外来」「足の動脈硬化外来」を開設しております。おかげさまでご紹介頂く患者様は増加傾向です。循環器疾患の診療において、心・腎・糖尿は密接に関係する病態であり、それぞれの専門医、加えてパラメディカルの連携が極めて重要です。当院内、また地域の先生方との連携（病診・病病連携）をより深め、患者様にとって真に質の高い医療を提供できるよう努力する所存です。本年も引き続き、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。

整形外科部長兼
脊椎センター長兼
リウマチセンター副センター長
金澤　元宣

りんくう総合医療センター整形外科は、大阪大学整形外科教室の関連施設として脊椎外科グループおよび股関節診療グループより脊椎外科および人工関節専門医が赴任し、脊椎センターおよび人工関節センターを併設し脊椎、関節疾患に対して高度な専門的手術治療を中心とした診療を行えるよう日々切磋琢磨しております。人工関節センターでは、膝関節、股関節疾患に対してより専門的な治療を開始しております。特筆すべき点は、先進医療としてナビゲーションシステムによるコンピューター支援手術を導入し、従来の手術と比較してより正確な人工関節手術が可能となりました。脊椎センターでは、脊椎、脊髄の様々な疾患は救命救急センターと連携し、脊椎・脊髄損傷の治療にも対応できるよう心がけております。また、地域医療ネットワークを通じて、手術の必要でない患者様には地域のクリニックや診療所の先生方に治療していただくように連携を密にしていくよう心がけております。

また、膠原病内科部長の入交医師と整形外科医師とでリウマチセンターを開設し、リウマチ疾患に対して内科と整形外科が協力して診療を行っていく体制を整えております。

今後とも泉州地域の基幹病院としての役割を果たすべく精進していきたいとかんがえております。

形成外科科長
服部　亮

昨年一年も、多くの先生方や、看護師、薬剤師、事務職員をはじめとしたコメディカルの方に支えていただきました。誠にお世話になりありがとうございました。

ガイドラインに準じた標準的治療に留まらず、少しでも患者さんに喜んでもらえるよう、形成外科的なこだわりを持った治療を提供できるよう日々の診療に取り組んで行く所存です。今年もよろしくお願いいたします。

呼吸器センター長兼
呼吸器外科部長
桂　浩

皆様、明けましておめでとうございます。着任以来、早や5年が経ち、これまでの勤務地で最長、未体験ゾーンへ突入しております。

例年通り、当科のスタッフは、未だ小生1名より、不本意ながら多方面にわたり壁に直面しながら航行中です。今年の干支「申」は、一説には「伸」成熟にあたるとありますが、いつのことになるでしょう。いずれにせよ、本年も、ただ、安全に、少しでも満足していただける医療を提供する事を目指したいと思います。関係各位の皆様、本年も、ご指導、御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

周産期センター
新生児医療センター長兼
小児科部長
住田　裕

泉州南部では、地域の小児科医減少に歯止めがかからず、乳幼児健診やワクチン接種など、小児保健分野を維持することが困難な状況が続いています。2015年4月、泉佐野市、泉南市、熊取町、田尻町の2市2町が行政の枠を超えて、定期乳幼児健診の二次健診（「すこやか健診」）を合同で開始しました。りんくう総合医療センター小児科のマンパワーにも限界があるので、この合同健診を含め、地域小児医療・保健を維持していくことがこれからの大きな課題です。皆様のご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

周産期センター
産科医療センター長兼
産婦人科部長
荻田　和秀

新年あけましておめでとうございます。

泉州広域母子医療センター周産期センターの荻田和秀です。

開設から9年目を迎える当センターですが、地域のためのみならず大阪府南部地域の要として本年も頑張る所存です。

地域の妊産婦さんや産婦人科救急患者さんをシームレスに受け入れるように開業医の先生方とも協力して安心安全を提供するだけでなく、さらなるサービスの向上を目指してゆく予定ですので何卒ご期待下さいますようお願い申し上げます。

耳鼻咽喉科部長
硲田　猛真

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、当科の一方の大きな柱である聴覚系につき、新人の言語聴覚士が採用されました。より一層補聴器や人工内耳、言語障害などへの対応ができるようになり、聴覚言語センターを開設するに至りました。本年も引き続き活動の幅を拡げてゆく所存です。他の分野共々皆様のお役に立てればと考えております。

本年もよろしくお願い申し上げます。

口腔外科部長
大前　政利

今年の干支は『丙申（ひのえさる）』で33番目の干支です。十二支では9番目で、十二生肖では猿です。申は甲骨文字の稲妻の形から発生したもので、神／伸びる／申す等の意味が出てきたそうです。とても良い文字ですね。

今年も『あきらめないがん治療』は実践しますが、現在『ホウ素中性子捕捉療法』がルールに縛られた治験中のため、実用的でありません。引き出しの一つが閉じられて痛いところですが、他の選択肢を持っているのが当科の強みです。南大阪で顎顔面外科をオールラウンドにできるのは、当科だけです。『りんくうの口腔外科ならでは』と言われる臨床も多く、申年にさらに伸ばして参ります。

中央手術室長兼
麻酔科部長
小林　俊司

『よき仲間、よきチーム』

あけましておめでとうございます。

早いもので、私が当院に赴任して7年が過ぎました。山あり谷ありの日々でしたが、私は今の手術室と麻酔科を、とても気に入っています。これまで私もたくさんの手術室で働いてきましたが、これほど働きやすく、充実した職場はありませんでした。若手が多くて活気がある一方、ベテランは優しく親切なメンバーばかりです。ここ数年、当院の手術数は増加の一途をたどり、一例一例の重症度も増していますが、このチームなら戦っていけそうです。よき仲間たちと、今年も頑張っていこうと思います。

リハビリテーションセンター長兼
リハビリテーション科部長
櫛谷　昭一

あけましておめでとうございます。昨年度は土曜日のリハビリテーションの終日実施を達成し、本年度は日曜祝日のリハビリテーションの完全実施に向けて取り組んでいきます。又、がんリハビリ研修に参加し保険算定可能スタッフの増加を図り、昨年度より開始している外来心臓リハビリテーションを軌道に乗せたいと考えております。他職種の方々のご協力をよろしくお願い申し上げます。

大阪府泉州救命救急センター所長兼
Acute Care Surgery
センター長兼
重症外傷センター長兼
医療安全管理室長
水島　靖明

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年4月より、所長を拝命いたしました水島でございます。まさに昨年は矢の如く過ぎ去ってしまった日々でした。なにかと変動の激しい救急医療の分野ですが、さらに今年は、新しい専攻医制度や指導救命士などシステムの上でも、激動する年となるかもしれません。今年は、「しっかり、着実に」と常に心で唱えながら、救急医療での様々な課題にも取り組んでいきたいと思っております。

大阪府泉州救命救急センター副所長兼
血管内治療部長
井戸口　孝二

新年あけましておめでとうございます。おかげさまで、血管内治療部として今年で3年目を迎えることができ、皆さまのご支援に感謝申し上げます。血管内治療につきましては、緊急症例に限らず、幅広く対応させていただきますので、引き続き院内外の先生方のご紹介をお待ち申し上げます。なお、毎週水曜日午前にりんくう総合医療センターにおいて血管内治療外来を開設しておりますので、お気軽にご相談ください。血管内治療を通じて、地域医療に少しでも貢献できるように努力いたします。本年も、何卒よろしくお願い申し上げます。

国際診療科部長兼
健康管理センター長
南谷　かおり

明けましておめでとうございます。

訪日外国人数が増加するなか、昨年は通訳件数が過去最高となりました。アジア諸国からの観光客が病気や怪我で来院するケースが目立つようになり、中国語、英語、フィリピン語の件数が伸びています。現場からの要望に応えて、今年はテレビ電話による遠隔医療通訳に取り組みます。

人間ドックは受診者が増え、12月に3月までの予約が埋まりかけていました。そのため受診者が各科を効率よく回れるように工夫して、受診枠を増やしました。市民が健康で長生きできるよう、病気の早期発見に努めます。

看護管理室
副看護局長
甲斐　美智子

2016年 新年あけましておめでとうございます。

今年は申年で私も5回目の申を迎えます。看護師生活39年、りんくう総合医療センター市立泉佐野病院からりんくう総合医療センターに変わり、ここでの15年、色々と楽しい思い出・辛い思い出がありましたが、定年まで働くことができて皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

今年は病院全体で協力して、2月の第9回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会を成功させ、次年度に勢いを繋げていけたらと思っていますので皆様ご協力をよろしくお願いします。

私も年度末までしっかり職責を果たすことができるように頑張ります。

看護管理室
副看護局長
鈴木　千晶

2015年の漢字は、「安心」「安保」「不安」からの「安」でした。10年後には超高齢化社会を迎え、医療も地域や介護に重点を置かれるようになり「生活支援型医療」へと変化していきます。病院主流になっている現在、患者様の立場からすると在宅・地域で同じような「安心」した医療を受けられるのか「不安」な気持も残ると思われます。その為病院として、入院時点あるいは入院前から、退院を見据えた短期間で濃いケアを効率よく行っていかなければなりません。病院理念である「納得と安心」を提供するには、一番は相手の気持ちを考えたコミュニケーションが重要だと思っております。

看護管理室
副看護局長兼教育責任者
井出　由起子

りんくう総合医療センターが地域で選ばれる病院になるためには、病院で働くすべての職員が、ホスピタリティマインドを持って、患者さまやご家族と接することが必要であると考えます。「ホスピタリティ」の原点は、「何をしたかではなく、相手がどう感じるか」にポイントがあります。相手を思いやれるような、良好な関係を築きあげることができるようにこの新年を迎えるにあたり自身についても振り返り、自分に磨きをかけたいと思います。大切なことは、自分自身をよく知ることではないでしょうか。

今年度もどうぞよろしくお願い致します。

看護管理室
地域医療サービスセンター
副センター長兼
看護師長兼急性期ケア推進室
髙橋　敏枝

新年、あけましておめでとうございます。

昨年は退院調整看護師としての新しい役割を頂き、地域医療連携室での仕事が始まりました。手探りで仕事を行う中、様々な方の協力のもと新たな退院支援システムを構築し運用することができました。

今年度はこの退院支援システムを評価し、各看護師長や入退院サポートセンター、MSWなど他職種と連携を取り、個々の患者様にあった退院支援の充実を目指していきたいと思います。また、地域医療機関や訪問看護師、介護支援専門員などとの繋がりを深めていきたいと思います。本年もよろしくお願い致します。

中央手術室看護師長兼
中央滅菌室長
藤原　妙子

新年にあたりお喜び申し上げます。

長年手術室看護管理をしている中、予てから抱いていた夢の一つである2交代制の導入を6月より実現することができました。予定手術に対応する看護師を確実に確保できたり、長時間勤務による肉体的、精神的疲労の軽減ができたりと、基本的なことばかりですが大きなメリットがありました。24時間看護師が常駐することで、緊急手術の即時対応や他部署への応援なども可能となり患者様へのメリットも高かったと評価しています。

また、7月から4診療科に特化して専門チーム制を導入し、手術看護の質向上を図っています。今年度も関連部門との協力体制を持ち、患者様、医療者の満足度の高い手術環境と手術看護を提供できるよう邁進していく所存です。本年もよろしくお願いします。

放射線科看護師長
則村　正文

新年明けましておめでとうございます。

一年もあっという間に過ぎてしまいました。

中央放射線部では日々、CT、MRI、アンギオ、テレビ、内視鏡、RI検査や、放射線治療など様々な検査、透視下の処置や治療が行われています。

予定の検査、治療が滞りなく実施でき、緊急の検査、治療が迅速に且つ安全に受け入れることができる。このことが当たり前のようにできるように、医師やコメディカルと連携を深め、共同して頑張っています。

患者様の診断、治療の医療過程により良い医療を提供すべく、スタッフと共に努力していきたいと考えています。

本年もよろしくお願いします。

外来看護師長
松井　美智子

明けましておめでとうございます。外来の各ブロックでは、患者さんに寄り添えるよう様々な取り組みをしています。これからも外来受診の限られた時間を有効に時用できるよう看護師が関わっていきたいと思っています。在宅での患者さんや家族の不安や困りごとや必要な援助に気付き介入していけるよう努力していきたいと思います

本年もよろしくお願いいたします。

外来(入退院サポートセンター)
看護師長
渡邊　久代

新年明けましておめでとうございます。入退院サポートセンターでは患者様の入院時の情報収集をおこない、退院後の生活を見据えた介入が早期から開始できることを目標に地域連携室と情報共有し退院支援を行えるようなシステムを構築しています。

当院で治療される患者様に私たちが出来ることは何か?ということを念頭に置いて誠意ある対応を心がけてスタッフ一同頑張っています。

これらのこと以外に病床管理も担うようになり入院の必要のある方をお断りすることなく速やかに入院できるように調整しています。

今年もあっという間に時間が過ぎるかと思いますが毎日を大切に「発想の転換」をしながらいろいろなことを発信し活動していきたいと思っています。

御協力よろしくお願いいたします。

外来看護師長
濱　裕代

明けましておめでとうございます。

りんくう医療センター救急外来は、1か月の時間内受け入れ件数は平均約200件・時間外受け入れ件数は平均約640件となっています。

①地域に信頼される医療機関

②南泉州の救急医療を守る

のスローガンを実践できるように、救急外来に携わる医師・救急外来看護師が中心となり、院内の各部署に協力を得ながら今年度も頑張っていきます。

ICU/CCU看護師長兼
急性期ケア推進室副室長
川島　孝太

開設当初よりICUは2:1看護を個人完結型で提供していたため、看護の質のばらつきや業務負担の集中化などが発生していました。そこで昨年度から当ICUにもパートナーシップナーシング(PNS)を導入しようと取り組んでいます。協働型の看護方式には個々の自立性や協調性、リーダーシップなどの能力が必要ですが、3年前よりスタッフのコンピテンシー育成にも注力していたため、下地作りはできたと考えています。今年はPNSを定着させ、更なるクリティカル看護の質向上を目指したいと思います。本年も何卒よろしくお願いいたします。

5階海側病棟看護師長
上野　智美

5階海側病棟が救命センターと統合されて3年が経過しました。緊急入院・退院と目まぐるしく患者様が入れ替わっていく中、十分な看護が提供できないジレンマを感じることもあります。しかし、看護の質とその評価をどうしたらよいか、私たちの目指すものは何なのかという本質を見失うことのないよう、一致団結した病棟作りに励んでいこうと思っています。50名の看護師を抱える大所帯病棟の強みを活かして、複数の診療科を取り巻くコメディカルが巧く融和した院内のモデル病棟を目指します。

6階海側病棟看護師長
松本　由美

新年を迎え、昨年はどんな年であったか振り返ってみると、手術件数が増え多忙な一年であったと思います。その中でも、スタッフの協力があったからこそ乗りきることができました。退院された患者様より「諦めなければ、夢はかなうずかなう」というお言葉を頂きました。その言葉が胸に詰まるようでした。管理者として、できることはやらなければと思う反面、スタッフに重荷になっていないか、患者にとって良い事だったのか・・・いろいろ考えることもありました。言葉通り何事にも前向きに考え行っていけば、必ずできると信じ、今年も、患者・家族に寄りそった看護が提供できるように努力してきたいと思います。

NICU/GCU看護師長
西出　あや子

NICU/GCUスタッフは、周産期医療に携わるチームの一員として、一人一人が役割意識を持ち、自己研鑽に努めています。質の高い医療や看護を提供するうえで、欠かすことのできないコミュニケーションに関しても学習を深めています。コミュニケーションは、その目的により様々な技法があり、非常に奥が深いです。赤ちゃんやその家族との関わり、医師・看護師・他職種間でのコミュニケーション。その時々の意味を十分に考え、家族の支援者として、またチームの一員として、最大限の力を発揮できるよう、今年も取り組んでいきたいと思います。

6階山側病棟看護師長
福島　ひとみ

新春のお喜びを申し上げます。安心・安全な産婦人科・周産期医療をめざして泉州広域母子医療センターは7年たちました。少子高齢化に伴いこの泉州地区でも分娩はやや減少気味ですが、分娩年齢や社会的リスクでのハイリスク妊産褥婦は減少していません。泉州救命センターと統合してからも、24時間いつでもという姿勢を崩さず、当病棟はその後の回復・フォローに努めております。また、正常分娩の妊産褥婦の方々にはリラックスして育児をしていただけるよう、個々のニードにこたえられるように日々研鑽しております。今後は入院アメニティーを向上させ、より安心・安全の分娩施設としていきたいと考えています。

7階海側病棟看護師長
南　昌子

あけましておめでとうございます。あっという間に1年が過ぎてしまったように感じます。7海は耳鼻科と整形外科の病棟ですが、どちらの科も日々医学や医療技術の進歩により、より最先端の治療を取り入れておられます。看護師もその最先端の治療に取り残されないように、勉強会の開催やカンファレンスで学びを深めています。患者様により安全な看護が提供できるよう、知識、技術はもちろん、看護師として、1人の人間として自分自身をしっかり磨いていき、「りんくうの病院で入院できてよかった」と言っていただけるような病棟づくりを頑張っていきたいと思います。

7階山側病棟看護師長
奥出　恵子

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は多くの医師・薬剤師・栄養士・理学療法士・ＭＳＷをはじめコメディカルまたメディカルクラークの方々にご協力頂き感謝いたします。

そのおかげで循環器病棟そして患者家族様を支えることができました。今年も皆様のご支援をお借りして看護師の満足と患者家族様の満足がより一層一致する看護を、社会の変化に適応しながら提供していきたいと思います。

病や悪いことが去り、良い幸せがやってくるように、成熟しつつある34名の「ウキキ」達と一緒に患者家族様から一言でも多くの「ありがとう」の言葉が頂けるように頑張ります。

そのためにまた今年も「神鳴り」を落とします。今年もよろしくお願いします。

8階海側病棟看護師長
射手矢　奈津子

昨年もあっという間に終わった1年でした。外科病棟としてＰＥＡＣＥ研修終了者が半数以上となり、またＥＬＮＥＣへの参加6名終了し、一般病棟でも緩和ケア・終末期ケアが充実し、満足して頂けるようになってきました。質の高い看護として、クリニカルパスのさらなる充実をおこない使用率は80％となっています。また早期退院や在宅医療への継続に向け、昨年から経管栄養やストマ自己管理・中心静脈栄養管理についてのＤＶＤ作成を行い、早期指導を行い、患者、家族様が不安なく退院できるよう力を入れたところです。今年もさらなる努力をし、患者、家族様に、満足して頂ける看護を実践していきたいと思います。チームワークを、発揮し活気ある病棟として今年も、頑張っていきます。

8階山側病棟看護師長
高島　麻由美

8山病棟は、毎年何かしら変化があり、昨年度は、造血幹細胞移植を2例実施し、血液内科の新たな一歩となりました。それに伴い看護では、看護基準、ケア、看護教育や体制など再構築を行ってきました。これには、様々な職種の方のご協力、お力添えがあり、チーム医療の大切さを痛感しています。まだまだ至らない点がみえ、いかに問題に気付くか、それをどう解決するかが今年度の課題です。看護がつなぐチーム医療の実践ができるよう、がんばります！

感染症センター看護師長
深川　敬子

あけましておめでとうございます。4月に感染症センター兼　院内感染対策室に異動しました。5月に中東呼吸器症候群（ＭＥＲＳ）が大きな話題となり、日本で患者さんが発生するかもしれないという危機感を持ちました。異動後、いきなりでしたが感染と災害が共通していることを実感しました。突然、感染症を発症し戸惑う患者さんが、安心して治療に専念できるように、安らぎを感じて頂けるように看護の力を合わせて頑張ります。

本年もよろしくお願い致します。

救命初療／手術室看護師長兼
急性期ケア推進室
藤原　由子

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

近年は救命センターでも、高齢患者様が増え、80代以上の方が救急搬送されることも珍しくなくなりました。特に、対象患者様の背景をいち早く知るため、普段のかかりつけ医や入所施設、訪問看護師、介護・福祉関連など地域医療からの情報をスムーズに得ることが、救急医療を開始するために重要だと感じています。また、外傷に関しては消防からの要請があれば、直ちにドクターカーで現場出動し、病院前での医療を展開しており、地域社会と接する機会も増えています。これからはさらに、地域連携を強め、多種多様な医療ニーズに応えられるチーム作りを念頭に、今年も初療看護スタッフ一丸となってがんばります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

救命ＩＣＵ看護師長
迫田　ひとみ

昨年4月から救命ＩＣＵ病棟看護師長の任に就かせて頂きました。泉州救命センターには22年間勤務していました。しかし、初めての看護管理は自信がなく不安もあり、右往左往する日々でしたが、医師・各病棟の師長・他職種の方々の協力のもと支えられ乗りきれたと思います。そして、何より、より良い看護ケアを提供するために奮闘するスタッフがいることで頑張ることができました。個々の看護師のキャリア支援と共に、さらなる互いの成長を支え合う職場風土づくりの向上を目指していきたいと思います。

5階山側救命病棟看護師長
萩原　文子

救命センターとりんくうとの混同病棟として、平成24年度に開棟した病棟も5年目を迎えることとなりました。

そして、高度脳損傷・脳卒中センターとしての役割を少しずつではありますが、果たすことができていると感じています。

両センターの統合もそうですが、医療全体が目まぐるしく変化しているこの瞬間を見逃すことなく、組織としての役割を常に意識しながら、専門職として、スタッフ一人一人が少しでも、自分の意思とともに、進んでいくことができる環境を支援できるように、取り組んでいきたいと思います。

リハビリテーション科技術科長
藤野　文崇

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は、土曜終日と日曜、祝日の午前中のリハビリテーション提供を開始しました。今年は、土曜、日曜、祝日のリハビリテーションの体制を強化できるように取り組んでいきます。また、疾患別リハビリテーションの強化にも取り組んでまいりますので皆様ご協力をお願い申し上げます。

今年も、リハビリテーション科一同力を合わせて頑張っていきますので宜しくお願い申し上げます。

検査科技術科長
三ノ浦　保彦

検体検査部門では昨年秋、主力となる検査装置の殆どを入れ替えました。一世代前の老朽化した検査装置が、処理能力も精度も比べものにならない最新の装置に替わりました。システム設定等の煩雑さで手を焼き、初期トラブル等で臨床側に迷惑をかける事もありましたが、ようやく軌道に乗りつつあります。

今年は、これらの高性能な測定装置を安定的に作動させ、得意とする迅速測定をフルに発揮させることにより、「患者様の待ち時間の短縮」に貢献できるよう取り組んで行きたいと思います。

薬剤科部長
森朝　紀文

特定行為に係る看護師研修制度の開始や診療放射線技師及び臨床検査技師の法律の改正による業務範囲の拡大など「多職種によるチーム医療の実践」が具体的に拡まってまってきました。我々薬剤師においても、薬の専門家として有益で安全な薬物療法を提供するため、医師に積極的に処方提案を行うことが望まれています。特に、高齢者においては多くの疾患を有するため多剤併用（ポリファーマシー）となることが多く、相互作用の有無、有害事象などが発現していないか等を常にチェックしようと思います。

放射線技術科技術科長
小西　康彦

新年、明けましておめでとうございます。昨年は、法律改正で診療放射線技師の業務範囲が拡大されました。院内においてもステントグラフト手術支援など新たな業務に取り組んできました。また、新卒採用者を迎えたことがスタッフにも良い刺激となり、スタッフ間のコミュニケーションもよくなりました。しかしながら、患者様から御意見をいただくこともあり、本年はさらなるＣＳ向上を目標に「当たり前のことを普通にできるよう」に努力して参ります。

臨床工学科技術科長
河野　栄治

新年明けましておめでとうございます。りんくう総合医療センター臨床工学科は計17名体制で新年を迎えました。昨年11月に臨床工学技士の当直体制を導入し、一年あまりが経過しました。結果従来のオンコール対応時よりも3倍近い対応件数となり、昨年より救急医療の充実また迅速な院内対応に力を入れた成果があったのではと感じております。今年も、既存の業務の充実に力を入れ、また共にがんばっていける新しい業務に取り組めればと思います。若手スタッフもベテランスタッフも、昨年に引き続き鋭意努力して参る所存です。今年もよろしくお願いいたします。

栄養管理科主査兼
医療マネジメント課
住井　諭美

新年明けましておめでとうございます。今年度の取り組みの重要ポイントとしては、院内規約の改正と術前・術後の栄養管理の充実と新たな運用を開始していく予定です。入院給食においては、「おいしい食事プロジェクト会議」を立ち上げ、より質の高い食事を提供し、早期離床 早期退院につなげていきたいと思います。栄養士がチーム医療の中で専門的な能力を発揮していけるような体制づくりに努めたいと考えています。今年もどうぞよろしくお願い致します。

事務局次長
藤原　正則

新年明けましておめでとうございます。昨年を振りかえると、教育研修棟のオープン、事務局組織の改編、結核事象への対応、中期計画の策定など何かとあわただしく過ぎたように感じます。院内施設の有効利用や環境整備に関しては、費用対効果の再検討などにより引き続き課題として残っている状況もあります。28年度からスタートする2期目の中期計画では、最優先で資金不足の解消を図る必要がありますが、診療報酬改定や消費税の影響などによりさらに経営環境が厳しくなることが予想されます。そのような中にありますが、職員の皆様の知恵と力を結集して、より良い医療の実現と安定的な病院経営になるように少しでも前進していければと考えております。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

経営戦略・計画担当部長
北川　和義

地域医療機関の先生方、地域住民の皆さま、職員の皆さま、新年明けまして、おめでとうございます。りんくう総合医療センターも早いもので、独立法人化して5年が経過し、２０１６年は新たなステージに入っていく年です。第1期の5年間を振り返りますと、地方独立行政法人制度の特徴を活かしながら、大阪府立泉州救命救急センターとの統合、地域医療支援病院の承認など、医療機能の向上に努めてきたところです。また、病床稼働率の向上やＥＳＣＯ事業の導入など収支改善を図る施策を講じて一定の成果を上げていますが、残念ながら経営面では収支不足の状況となっています。

そこで、新たな第2期の計画期間中は、「脱却」、「連携」、「効率」の3つのテーマを掲げて行動したいと思います。一つ目の脱却は、赤字からの脱却です。市民病院から脱却し、地域病院であり続けることです。これまでの固定観念からの脱却です。医療の変化に立ち向かっていくためにも重要なテーマだと思います。二つ目の連携は、まずは地域との連携です。そして患者さんとの連携です。職員間の連携です。三つ目の効率では、真っ先に考えなければならない収益面での効率性です。次に、仕事にメリハリをつけた業務の効率化です。そして会議の効率化です。

以上の3つのことを基本テーマにあれもこれも一気には実行できませんが、しっかりと事実を見ていきたいと思います。しっかりと現場の意見を聞いていきたいと思います。そして、しっかりと自身の考えを言っていきたいと思います。今年度も微力ながら職責を果たして、頑張って参りたいと思いますのでどうぞよろしくお願します。

総務課長
平松　昌典

謹んで新年のご祝辞を申し上げます。旧年中はひとかたならぬご厚情を賜り、誠にありがとうございました。独法化後5年が経過し、4月からは第2期中期計画がスタートします。職員数は６７１人から昨年12月現在で９７９人まで増加し、第2期中期計画では１，０００人を突破することとなるでしょう。これだけの人数の気持ちが一つになれば、莫大なエネルギーとなります。"One for All, All for One"で活気溢れる元気で明るい病院を目指して精進して参る所存でございます。本年もご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

会計課長
神浪　功

新年明けましておめでとうございます。4月より新たに会計課が新設されました。課の業務として、健全な運営に務めるため、経費削減に重点を置くものの、安全な質の高い医療を提供するため、最新の医療技術に対応できるよう、老朽化した医療機器の更新や、計画的な施設の改修を進めます。皆様方のご協力なしでは実現できないので、お力添え賜りますようお願いいたします。今年は申年です、申年と言われている人物に「豊臣秀吉」がいます。一夜城の話から見られる回転の速さと行動力、これに倣って日々の業務に取り組みます。

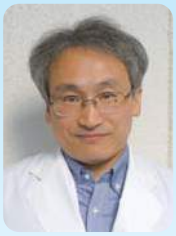
経営戦略室長
廣道　敦

新年あけましておめでとうございます。経営戦略室は昨年4月にできた新しい部署です。今までやってきた病院のシステムの管理はもちろん病院の計画づくりや病院全体のかじ取りをサポートする大切な仕事を担当させていただいています。今、超高齢化社会へ向けて、各病院は地域の中で機能と役割を明確にすることを求められています。その変化に対応できるようにさまざまなデータや数値の中から「何故」を見つけ出し、発信できる室を目指してまいります。

医療マネジメント課長
林　一彦

明けましておめでとうございます。今年は診療報酬改定の年です。改定の動向としては、病床機能の再編成や7対1にふさわしい「重症度、医療・看護必要度」と平均在院日数の短縮、地域連携による退院支援などが予想されマイナス改定になる見通しであり、病院運営としては厳しい状況になりそうです。医療マネジメント課としては、診療報酬改定対策・診療報酬請求・患者負担金の回収業務を重視し委託業者である「ソラスト」と協力して取り組んで行きたいと思っております。

渡部先生が 島根大学医学部教授に就任されました



●ご挨拶●　島根大学医学部　Acute Care Surgery（急性期・外傷外科学）講座　教授　渡部　広明

この度、りんくう総合医療センター 大阪府泉州救命救急センターを辞し、1月より島根大学医学部Acute Care Surgery（急性期・外傷外科学）講座を主宰することとなりました。院内外の皆様方には在職中一方ならぬご高配を賜り感謝申し上げます。

りんくう総合医療センターでは、2012年に日本初となる「Acute Care Surgeryセンター」を設立したことで、対象症例の集約が進み、全国から多くのAcute Care Surgeonを目指す若手がこのりんくうへと集まるようになって参りました。今や、りんくう総合医療センターは、全国的なAcute Care Surgeryのメッカとなりつつあり、今後もよりいっそうの飛躍を遂げることと思います。さて、私は1月から母校であります島根大学医学部に新設されました「Acute Care Surgery（急性期・外傷外科学）講座」に移りまして、全県を対象とした「高度外傷センター」を設立し、地方の重症外傷診療を担うこととなりました。りんくう総合医療センターで培ってきたものを微力ながら地方の救急・外傷診療に生かして参りたいと考えております。皆様方、長きにわたってお世話になりました。ここに改めまして御礼申し上げます。

りんくうリレーマラソン2015　りんくうRUN部

11月1日に、りんくう公園内にて「りんくうリレーマラソン2015」が開催されました。1チーム4人から10人のメンバーでエントリーが可能で、20kmのコースをチーム全体で走り抜くのがルールです。

今回、りんくう総合医療センターの事務局から2チーム総勢20人がエントリーしました。みんなお揃いの「りんくう総合医療センターTシャツ」を着て、2チームとも見事に完走することができました！

医療もマラソンもつながり（連携）が非常に重要です。今回、走ったメンバーはもちろん、走らなかったメンバーも応援で参加し、みんなでたすきをつないでゴールを目指すことで、りんくう総合医療センターとしてのチーム力の強化ができました。今年、当院からは事務局だけの参加でしたが、来年は多職種で参加して、たすきをつなぎ、ゴールを目指しませんか。医療連携も含め、医療のチーム力を地域住民の皆様に伝えていきましょう！

第6回・第7回　泉州地域医療フォーラム

5月30日（土）と11月28日（土）スターゲイトホテル関西エアポートにて、「泉州地域医療フォーラム」が開催されました。

この泉州地域医療フォーラムは、地域医療再生計画における医師確保策の一つとして、地域医療について研究する寄附講座を開設し、臨床研究の現場となる各病院で若手医師が診療にあたりながら、各種疾患の解析・研究等を行い、その成果を発表する場です。また、地元の医師会の先生方を交えた合同研究会をはじめ、情報交換会もあり、毎年、年2回開催されています。

今年も多くの方々が出席をされ、盛大に行われました。

JASTAりんくうクリスマスコンサート vol.17
～17世紀欧州を席巻するヴァイオリン～

12月12日（土）に第17回の「りんくうクリスマスコンサート」が開催されました。

このクリスマスコンサートは入院中・通院中の患者様と看護などに携わる方々への癒しと励ましのコンサートであり、地域の皆様との交流のコンサートです。

ご来場の皆様、企画・運営の久保様はじめ、関係者各位の皆様、ありがとうございました。

【出演】
■企画・司会
久保由佳子さん
■チェンバロ
山名敏之さん
（和歌山大学教授）
■バロックヴァイオリン
園部修子さん
（和歌山大学大学院生）

編集後記

新春のおよろこびを申し上げます。

新年を迎えたのがついこの間の様に感じられる昨今、一月のことを「睦月」と言いますが、仲睦まじくという意味があるそうです。今年もまた互いに協力し合い良い医療につながって行ければと思います。

さて、厚生労働省は「利用者の視点に立った効率的で、安心かつ質の高い医療の提供」「健康寿命を延ばし、生活の質を高める保健医療サービスの提供」「国民に信頼される持続可能で安定的な医療保険制度の構築」を“目指すべき方向”として挙げています。

どれも重要であることは言うまでもなく、国という大きな単位もまず、地域、各施設の単位の積み重ねと感じ、日々精進し皆様と歩んで行ければと思います。

また、りんくう総合医療センタースタッフ一同の各年頭所感にあるように、前向きにがんばり、今年一年、充実した一年であったと振り返ることが出来る様な「NICE SMILE」を発行できればと思います。

編集委員（臨床工学科技術科長）　河野　栄治

人権標語　人権はみんなが持つもの守るもの